

8. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【奈良先端科学技術大学院大学】

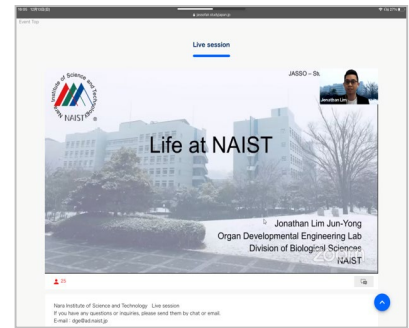
■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ 海外教育連携拠点等を活用した留学生の戦略的な獲得

本学は、優秀な留学生獲得と海外における本学のプレゼンスを示すことを目的に、アジア地域における教育研究連携の拠点としてインドネシア及びタイに開設した海外オフィスを活用して積極的な学生募集活動を展開している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う渡航制限のため、全面的にオンラインに切り替えて学生募集活動を実施した。本学インドネシア同窓会(INAA)との連携協力により、インドネシアの7つの学術交流協定校の学生を対象にオンライン大学説明会を開催し、約50人の参加者と本学教員・学生が直接対話する機会を設けた(R2.10.3)。また、オンラインで実施されたJASSO留学フェアや、南米、ロシア、ウズベキスタン、カザフスタン等を対象とした日本留学海外拠点連携推進事業等による留学フェアに初めて参加し、新たな国・地域からの学生獲得に向けて積極的に広報活動を実施した。1年間で20以上の国・地域でオンライン学生募集活動を展開し、約700人のバーチャルブース訪問者に対して

大学説明・研究室紹介を行い、潜在的な入学希望者の発掘に取り組んだ。令和3年5月現在の留学生数は280名(世界33国・地域)であり、コロナ禍にもかかわらず、出身国・地域の多様性と安定した留学生数を維持している。



〈 JASSOオンライン日本留学フェアで学生が発表 〉

ガバナンス改革関連

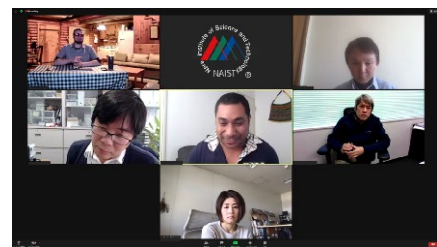
○ UEAの配置によるキャリア支援体制の強化

平成29年度に確定した新たなUEAの人事制度(採用5年目に任期の定めのない雇用への転換がある高度専門職系職員)に基づき、令和2年度に教育推進機構・キャリア支援部門においてUEAを新たに2名採用し、日本人学生及び留学生に対するキャリア支援体制の充実・強化を図った。

教育改革関連

○ 教員向けオンライン海外FD研修等の実施

教員の英語による教育・研究・管理運営能力を高めるため、毎年、海外協定校であるカリフォルニア大学デービス校(UC Davis)へ教員を派遣し、海外FD研修を実施している。しかし、令和2年度は、対面での現地開催が不可能となったため、同校の協力の下、初のオンラインによる海外FD研修を令和2年11月17-19日に実施した。オンライン研修には、情報科学領域、バイオサイエンス領域、物質創成科学領域の5名の教員が参加し、Zoomやeラーニング学習管理システム“Canvas”を用いたインタラクティブな指導・意見交換が行われた。研修参加者は、学習者中心教育(Student-centered learning)や課題解決型学習(PBL)について学びつつ、コロナ禍での授業運営や学生の学修意欲向上にあたっての課題を共有し、実践的方法論について理解を深めた。



〈 オンライン海外FD研修 〉

○ 国際FDウェビナーの実施

教職員のグローバル対応力を高めるため、UC Davisの協力の下、オンラインでの国際FDウェビナー・シリーズ(全2回)を企画・実施した。第1回「COVID-19の余波がもたらす『ニューノーマル』におけるグローバル教育の展望」(R2.10.6)では、コロナ禍においてオンライン教育・学習という新様式が確立しつつあるなかで、「教育の機能やミッション」について、教育関係者が改めて考え直す必要があるとの問題提起がなされた。第2回「教育・研究とSDGs～融合への取り組み～」(R3.3.2)では、大学の国際化にあたって多様性・公平性・包摂性を重視することをミッションとするUC Davisが、SDGsに取り組み意義について、具体的事例紹介を通して説明が行われた。本学教員からは、令和3年1月設置のデジタルグリーンイノベーションセンターにおいて、「バイオエコノミー」をテーマとした教育研究を通して「持続可能な社会の創り手」となる人材育成に取り組む計画が紹介され、講師と参加者の間で活発な意見交換が行われた。



〈 UC Davis教員を招いての国際FDセミナー 〉

○ コロナ禍の中でも「学びを止めない」ためのICTを活用した教育研究活動の継続

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う大学全体の活動制限指針の下、「授業アーカイブ」を活用した遠隔授業を令和2年4月から迅速に開始し、「学びを止めない」ための教育研究活動環境を整備した。また、留学生の学修環境の向上に向け、AI技術により英語字幕を自動作成して授業アーカイブ映像に付与する日本初となる取組を進めており、日英両言語の字幕を付与した授業アーカイブ映像の提供を開始した。学生募集活動については、VRを活用したオープンキャンパスを実施(R2.5.30, R3.2.20)、オンライン面接を利用した入学者選抜試験の実施決定を速やかに行った。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

【奈良先端科学技術大学院大学】

○ 全学グローバルキャリアパス支援

日本人学生の留学、海外挑戦の機運を高めるために、「海外留学 & グローバルキャリアセミナー」を開催し、本学の海外留学プログラムや海外インターンシップについて経験者の体験談を交えながら情報提供を行った(R2.12.22)。同セミナーでは、米国からオンラインでゲストスピーカーを招へいし、海外での理系キャリアパスを紹介していただく機会を設けた。このような啓発セミナーや留学相談窓口の常時設置等の取組、さらには令和2年度から運用開始した「長期留学支援事業」を通して、コロナ禍にあっても学生の海外挑戦への意識は高まっている。また、昨年度から引き続き、日本人学生向けに海外での企業等インターンシップの派遣支援を行い、新たにインターンシップ先として令和2年度に開拓した米国エネルギー省共同ゲノム研究所(JGI)への研究インターンシップに1名の学生がリモートで参加した(R2.7.13-9.11)。留学生向けキャリア支援では、英語対応可能な2名のキャリア相談員を配置し、年間340件の個別相談に応じてきた。

さらには、日本の企業で勤務しているOBOG留学生との交流会や留学生を採用する意欲のある企業による業界研究会の実施により、留学生の日系企業就職に向けた意識を高めることができた。加えて、日本にて起業している留学生OBを講師としたスタートアップセミナーを開催し、起業やベンチャー企業への就職など多様なキャリアを考える機会を提供できた。

■ 大学の特性を踏まえた特徴ある取組(タイプBのみ)

○ 修了留学生とのネットワーク強化

インドネシアNAIST同窓会(INAA)は本学唯一の海外における同窓会組織であり、インドネシア政府より非営利法人の認定を受けている。毎年インドネシア各地で実施されているINAA同窓会には本学教員も参加してきたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受けて、インドネシアオフィスと協働で初めてオンラインで開催した(R2.9.12)。インドネシアにおける本学の7つの協定校で研究者や教員として活躍している同窓生代表がそれぞれの大学における教育研究活動を紹介したほか、インドネシアの研究者と共同研究を実施している本学若手教員やインドネシア出身の本学現役学生がプレゼンテーションを行った。総会には、INAA会員、本学教職員・同窓生、現役インドネシア出身学生等、およそ70人が参加し、オンラインで久しぶりの再会を果たした本学教員と元学生、また同窓生同士が旧交を温めることができた。

○ 海外学生への魅力的な情報発信

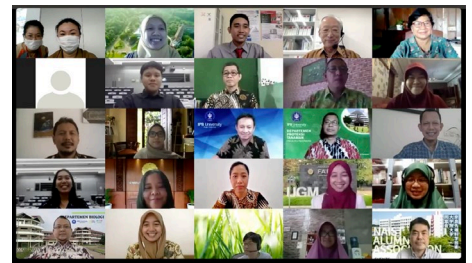
VRを用いた「受験生のためのバーチャルオープンキャンパス」のために本学教員が制作した「3Dキャンパス」、「2Dキャンパス」を英語化し、同ツールを用いてオンライン留学生募集活動において研究室を紹介し、海外学生にバーチャルキャンパスツアーを体験できる機会を提供した。また、英語版ガイドブックのデザイン・コンテンツを刷新し、現役学生のキャンパスライフや修了生のキャリアパスに関する具体的なエピソードを盛り込むことで、海外学生へより魅力的な情報を発信する工夫を行った。



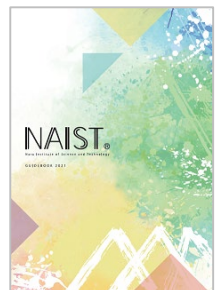
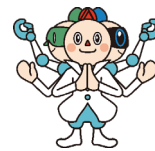
〈グローバルキャリアセミナー〉



〈米国JGIオンラインインターンシップ報告会〉



〈インドネシアNAIST同窓会オンライン総会〉



〈2021年ガイドブック〉



〈3Dキャンパスツアー〉

■ 自由記述欄

○ 広報の強化

本学のスーパーグローバル大学創成支援事業の進捗状況を分かりやすく学内外に発信するためにSGUウェブサイトのリニューアルを行った。また、教育推進機構・教育連携部門が中心になって進める教育のグローバル化、国際教育連携、グローバルキャンパスに係る各種取組をダイジェスト版でタイムリーに届けるために、ニュースレターの発行を開始した。



〈SGUウェブサイト・リニューアル〉



〈ニュースレター〉